

目次

今後のポンプ浚渫船高 木 博 二... 1
 技術士法の問題点平 山 復 二 郎... 2
 最近の建設事業と建設業小 西 是 夫... 5
 新治水 10 カ年計画について西 川 喬... 9
 京葉臨海工業地帯の建設および計画の概要赤 木 正 典...13
 最近の港湾工事の概要大 野 正 夫...17
 最近の作業船建造に表われた技術的進歩三 宅 淳 達...24
 運輸省ドラグサクシオン浚渫船について両 角 常 美...28
 硬土盤浚渫船について芳 野 重 正...32
 道路工事にモータスクレーパを用いて山 本 元...37
 西独におけるグースアスファルト工法亀 卦 川 振 興...40
 タイヤローラおよびパイプロコンパクタの現増 岡 康 治...44
 場締固め試験について角 島 康 弥
牧 田 新 也
 エアクリーナの試験小 池 正 人...50
清 水 富 士 雄
 「支部便り」
 東北支部第5回建設機械展示会東 北 支 部...53
 昭和 35 年度中部支部建設機械展示会中 部 支 部...54
 ニュース(編 集 部)...55
 行事一覽・編集後記(上 東・両 角)...56
 「建設の機械化」誌 既刊目次一覽表

◇表紙写真説明◇

ダイハツ工業株式会社製
 VRM タンデム形パイプレーションローラ

ダイハツVRM形パイプレーションローラは、国産振動ローラを最初に完成した当社が、多年の研究と経験により、転圧性能ならびに操縦性と、さらに居住性の向上をはかって設計製作したもので、原動機は高性能なダイハツ2PK-7.5形ディーゼル機関を搭載し、運転に関する各操作部にはすべて遠隔操作機構を採用し、また完全な防振座席による快的な乗心地等デラックスな振動ローラである。本機は特殊作業用軽自動車として登録できるため、軽免許で道路運行が可能である。

主 要 諸 元

形 式 名 称			VRM 形ディーゼル機関駆動タンデム形自走式パイプレーションローラ		
全 装 備 重 量		3,000 kg	ローラ振動数		3,000 cpm, 2,300 cpm
車 体 寸 法	全 長	3,000 mm	転 圧 能 力		6~16 t ロードローラ相当
	全 幅	1,290 mm	操作方式(走行起振)		遠 隔 操 作
	全 高	1,835 mm	変 速 機		常時かみあい歯車式 複式多板摩擦形
ローラ寸法	前(小)取輪	700 φ mm × 750 mm	起 振 機 構 式		Vロベルト駆動一軸偏心式
	後(大)取輪(振動)	850 φ mm × 900 mm	形 式 名 称		ダイハツ 2pk-7.5 立形 4サイクル2気筒 滑流室式ディーゼル機関
自走速度(前後進共)		20-40 m/min	原 動 機		定 格 出 力 10 PS/2,000 rpm 実 用 最 大 出 力 12 PS/2,400 rpm 総 排 気 量 0.742 l 始 動 方 式 電 気 始 動 冷 却 方 式 水 冷, ラジエータ, ファン 燃 料 消 費 率 240 g/ps.h 総 重 量 約 130 kg
最小回転半径		3.2 m			